

百丈岩から名塩川源流を歩く

第 83 回武庫川エコハイク

140308 エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²・篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の蓬川の東側が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門(むこみなと)」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は篠山市にある。篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川渓谷の急流となる。武庫川下流の治水対策として武庫川渓谷に治水ダムが計画されたが、県は武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、平成 22(2010)年 10 月、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

船坂川 六甲山石宝殿北西の谷に源流を持ち、船坂谷、西宮市船坂を抜け、西宮市北部の上水源・金仙寺湖に注ぎ、丸山ダムを経て、西宮市下山口を通り、鎌倉峡に入る。鎌倉峡出合で神戸市北区となり、百丈岩に至る。下流は北区道場町生野の集落を通り武庫川に合流する 2 級河川。上流に 3 つのゴルフ場、農地、集落がある。全長約 8km。

JR 道場駅 阪鶴鉄道が三田まで開通した明治 32 年(1899)に開設された。千苺水源池、鎌倉峡、百丈岩ハイキングの玄関口。

富士チタン工業 酸化チタンなどの製造会社、昭和 12 年に神戸工場として創業、石原産業の 100%子会社。武庫川から取水している。

船坂の由来 船坂川の上流にある船坂から船坂川となったが、この由来は建久元(1191)年有馬温泉中興の祖仁西上人が有馬温泉の湯槽をこの地で作らせたからとされている。

生野 道場町生野。古くは「塩生野(しりち=尻地)」と呼ばれていたが、「塩」が省かれ、「生野」になったと言う。尻地とは三田盆地の下端、渓谷の入り口から来たものと思われる。

新名神道路 中国道の神戸ジャンクションから東進し、武庫川上流浄化センター北側を経て、宝塚市北部から川西市に至る計画。現在工事中。

百丈岩 船坂川東岸にある高さ約 60mの縦烏帽子型の巨岩。関西屈指のロッククライミング場として有名。鎌倉時代の 13 世紀半ば、北条時頼が出家して最明寺入道と名乗り、この地にて百丈岩に登り、景色を愛でたと言う伝承が残る。山上に鎌倉大明神が祀られる。登頂は険しい道が続く、何箇所かに鎖も設置されている。往復約 60 分。麓にやまびこ茶屋がある。

百丈河原 百丈岩周辺の船坂川の河原は「百丈河原」と呼ばれ、飯盒炊さんやキャンプで賑わう。6 月には蜚が飛び交う。上流に丸山ダムがあるので、ダム放流があり、サイレン等で知られるので十分に注意が必要である。やまびこ茶屋がある。

羚羊谷(かもしかだに) 百丈岩の南側を流れる。

鎌倉峡 百丈岩付近から上流約 2kmは鎌倉峡と呼ばれ、武庫川渓谷と同じく地質は有馬層群で六甲山の上昇とともに上昇し船坂川によって穿谷されてきた先行性渓谷である。両岸は流紋岩質凝灰岩(石英粗面岩)で美しい渓谷を作っている。かつては水量も多く、清流であったが、上流に丸山ダムが出来て以来と考えられるが、水量が減少し、また洪水が減ったため渓谷内にヨシ等の植生が増加し、渓谷美を失わせている。最明寺入道時頼が愛でたことから

鎌倉峡、あるいはカモシカ谷がなまって鎌倉谷と言われるようになったともいう。

静ヶ池 生野のため池。羚羊谷を流れて船坂川に合流する。

生野高原住宅地 40 年ほど前に別荘地として売り出された。約 400 世帯。住所は神戸市北区であるが北区内での交通が不便で学校は西宮市に通学している。国道 176 号線の赤坂峠まで徒歩約 40 分。

西宮さくら台住宅 約 20 年前に開発された阪急不動産の開発地。

独鈷水(とっこすい) 有馬さん名水のひとつ。弘法大師の伝説がある。

名塩川 武庫川の支流のひとつ。源流を赤坂峠付近に持ち、左岸から読売ゴルフ場を源流とする細野谷川、猪切谷川、右岸から西宮高原ゴルフ場を源流とする尼子谷川が合流する。六甲山北側の雨の多い気象条件の下、武庫川渓谷の最下端で本川に合流する。延長 6.2km、流域面積 15.6 ヘクタール(武庫川流域の約 3%)。流域は有馬層群の流紋岩質。

くらがり街道 西宮道、丹波道ともいい、丹波杜氏が西宮の酒作りに通った道。約 65km の道を、夜中に丹波を発ち、夜中に西宮に着いたという。これから「くらがり街道」と呼ばれるという。

名塩 地名の由来は定かではないが、地内に塩類泉があったという。またこの地が塩尾寺山内にあることから内塩と呼ばれていたとか諸説が多い。

名塩紙 名塩は和紙で栄えた。江戸中期から明治にかけて名塩千軒といわれるほど、ほとんどの村人が和紙に関わったといわれる。現在は人間国宝谷野武信氏が間似合紙(まにあいし)の伝統を守っておられる。雁皮を原料とし、特殊な土を配合して変色しにくく、虫がつかない特徴がある。襖絵、書画用壁紙神社のお札に使われる。

紙祖東山弥右衛門 時代は戦国時代末期とか江戸時代初期といわれるが明確ではないが、名塩の人弥右衛門が越前に行き、製紙家の婿養子になり、製紙の技術を習得し、妻子を残し、名塩に帰り製紙の技術を広めたという。これにより名塩の和紙作りは大いに繁栄した。弥右衛門の妻子が弥右衛門を追って、名塩に来たが、村人が弥右衛門を引き止めるため、家族の再会を認めなかったため、妻は狂死したという秘話がある。これを作家水上勉が小説「名塩川」として発表した。また弥右衛門の顕彰碑は中山の山中にある。

名塩和紙学習館 西宮市立郷土資料館の分室。紙漉きの体験も出来る施設。

蘭学通り 国道から脇に入ると「くらがり街道」今は「蘭学通り」と名付けられている。

名塩蘭学塾 大阪緒方洪庵の適塾の塾頭伊藤慎藏が文久 2 年(1862)にこの地に開設し、多くの学者を送り出した。ここは緒方洪庵夫人八重の生地であり、この地が選ばれた。現在、JA 名塩支店となっている。

西宮名塩ニュータウン 住宅・都市整備公団が開発し平成 3(1991)年に街開きされた。愛称は「創造の丘ナシオン」。総面積約 243 ヘクタールあるが駅に近い地区中心に開発が進み、駅から遠い地区は未開発のままである。

名塩下滝 ニュータウン近くの名塩川にある滝。途中で二股に分かれる。

JR西宮名塩駅 昭和 61(1986)年福知山線の複線電化に伴い、線路の付け替えが行われ、昭和 61(1986)年新駅が誕生した。西宮名塩ニュータウン、名塩川流域の住宅開発にも対応している。今は武田尾駅まで 2970mのトンネルで結ばれた。